SHINRAN 750th

「いただこう　あわせる　掌のぬくもりを」

御遠忌通信

第11号

あかり　とも

発行日　2019年3月1日
責任者　宮尾　隆造
編　集　御遠忌実行委員会
連絡先　長浜教務所

〒526-0059
長浜市元浜町32番4号

TEL　0749-62-0737
FAX　0749-62-0754

巻頭言

御遠忌をお迎えし　遠き宿縁を慶ぶ

宗議会議員　髙月　賢瑩

いよいよ、長浜教区・両別院での宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が目の前と迫ってきました。

二〇一一年本山に於いて、その御遠忌の直前に東日本大震災が発生し、非常な状態でしたが、大法要を微調整しながら、円成に至りました。

今から五十八年前、宗祖聖人の七百回御遠忌、一九六一（昭和三十六）年当時のポスターの老若男女、和服姿の合掌姿が中学生だった私にはたいへん印象に残っています。

長浜教区は宗祖聖人を初め、中興の蓮如上人、その上人の吉崎御坊の御影道中、東本願寺を創立された教如上人、その上人の五日講、天明の大火での乗如上人、その上人の二十二日講、その法灯が途切れもなく相続されています。長い歴史と掌を合わせる習慣が脈々とこの地に生活の中に根付いていることを感じています。

七百回御遠忌のポスターに用いられた「合掌の図」

また、とてもありがたいことですが、今回の御遠忌には、記念事業の帰敬式、お稚児さんの募集では、早くに募集人数を超えてしまいました。これが「土徳」といわれているものなのでしょう。

両別院の御遠忌法要は五月十日からですが、讃仰事業として三月十日から、御遠忌オープニングイベントとして「いのちとことばの響舞台」をはじめ、讃仰記念講演会、子ども御遠忌等がはじまります。事業計画全ての準備に携わってくださっている方々の御苦労に頭が下がります。

五十年に一度のご縁です。世代を超えて老若男女の皆様と共に、自己を見つめ直すご縁をいただきたいものです。

四年後（二〇二三年）本山でお迎えする宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年の慶讃法要へ繋がる御遠忌にと願うことです。

参加費
無　料

御遠忌オープニングイベント

長浜教区・五村別院・長浜別院
宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌 記念事業

昼食（豚汁）
のおもてなし
があります。

いのちとことばの響（きょう）舞台

2019年3月10日［日］10:00開会式

会場：長浜別院（大通寺）本堂

真宗大谷派長浜教区では、「東日本大震災復興支援」として、5年間「お米の手渡し支援事業」に取り組んできました。この度、「長浜教区・五村別院・長浜別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」全体のオープニングイベントを、お一人でも多くの皆様と共々に確かめ合えることを願いとして、『いのちとことばの響舞台』を開催致します。さて、社会や自然環境や変化が著しく激しい現代に、東日本大震災は起きました。それは、私たちが何を拠りどころとして生きているのかを根本から問い直す機縁でありました。震災により様々な問題があらわになりましたが、以来、私たちの生き方は、親鸞聖人が明らかにされたお念仏の教えにかなってきたのでしょうか。東日本大震災を通して、あらためて人との出遇い、言葉との出遇い、いのちや人のつながりを親鸞聖人の教えに聞き、仏道を歩まんとする私たち一人ひとりの次なる一歩となることを願いとして開催いたします。是非とも、みなさまお誘い合わせのうえお越しください。

第一部　「ことばの響舞台」シンポジウム

テーマ：東日本大震災から８年　　10:50開会

東日本大震災を機縁として、真宗大谷派長浜教区で5年間取り組んできた「お米の手渡し支援事業」を通して、私たちは何を学び、何を得てきたか。この度の震災から得たことや学んだこと、そして、課題を再確認することを視野に入れ、一人ひとりの総括の場として語り合い、聞き合います。

第二部　「いのちの響舞台」参加型音楽イベント

〔東日本復興支援チャリティーコンサート〕　13:30開会

【ごえんき　ごきげん　ワークショップ　団体】
主催：311スマイルアゲイン実行委員会

【演目】

1、和太鼓の演奏・古事記読み聞かせ　（お経とのコラボ）
2、体と心をほぐす「ろっ骨エクササイズKaQiLa」
3、HEART&SOUL による ライブコンサート　ほか

【駐車場について】長浜別院境内にて駐車可能。ただし駐車台数に限りがありますので満車の際は、市内コインパーキングをご利用ください。

御遠忌テーマ　　「今、いのちがあなたを生きている」
御遠忌スローガン　「いただこう　あわせる　掌のぬくもりを」

〒526-0044 長浜市宮司町14
TEL：0749-62-0757
FAX：0749-62-0754

聴講無料

讃仰記念講演会

長浜教区・五村別院・長浜別院
宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌 記念事業

講題

「医療現場で求められる仏教」

会場：五村別院　2019年4月20日［土］13:30開会
住所：長浜市五村150
（16:00頃閉会予定）

たばた　まさひさ
講師　田畑 正久 氏

1949（昭和24）年、大分県生まれ。浄土真宗本願寺派門徒。九州大学医学部卒。国立中津病院、東国東地域広域国保総合病院（現、国東市民病院）を経て、現在、佐藤第二病院院長（大分県宇佐市）、龍谷大学大学院教授、大分大学非常勤講師。「西本願寺医師の会」発起人。大分県内で「歎異抄の会」を開催。著書に『生と死を見つめて－医療と仏教が共に出来ること』（東本願寺出版）『医師が仏教に出遇ったら』（本願寺出版社）『医療文化と仏教文化』（本願寺出版）『大往生できる人 できない人』（三笠書房）など。

講題

「となりの親鸞」

会場：長浜別院　2019年4月24日［水］13:30開会
住所：長浜市元浜町32-4
（16:00頃閉会予定）

なかじま　たけし
講師　中島 岳志 氏

1975（昭和50）年、大阪生まれ。真宗大谷派教学会議教学員。大阪外国語大学卒業。京都大学大学院博士課程修了。北海道大学大学院准教授を経て、2017年8月現在は東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授。専攻は南アジア地域研究、近代日本政治思想。テレビ朝日「報道ステーション」元コメンテーター。2005年『中村屋のボース インド独立運動と近代日本のアジア主義』で大佛次郎論壇賞を受賞。著書に『インドの時代』『「リベラル保守」宣言』『血盟団事件』『ナショナリズムと宗教』『親鸞と日本主義』など。

長浜教区・五村別院・長浜別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要
«五村別院　2019年5月10日（金）～12日（日）»
«長浜別院　2019年5月17日（金）～19日（日）»

1257年（85歳）　親鸞、『浄土三経往生文類』（広本）を転写。
親鸞、『如来二種回向文』転写。

各組からの声

思い出を磨くこと

第12組　光圓寺住職　髙堂　祐眞

一九六八（昭和四十三）年の十一月一日から三日までの三日間、自坊光圓寺で親鸞聖人の七百回御遠忌が厳修されました。まさに門徒の皆さん手作りの御遠忌でした。門前に杉の葉で飾られた門柱が建てられ、門を入った右手に笠をかぶった親鸞聖人の手作りの像がありました。普段は農作業でごつごつした手に数珠を持ち右手で杖をついて、にこにこほほえみながらお寺にお参りされたお年寄りの姿が目に焼き付いています。

当時、私は中学校一年生、二人の弟は五年生と二年生だったと思います。その頃父はガン闘病中でおねりは歩くことができず、私が父の代役でした。その三年後に父はなくなりました。あれからちょうど今年が五十年目にあたります。

五十年ごとにお勤めする意義、それは、五十年前の同行の皆さんがどんなことを伝えようと表現されたのか。私たちはどういうバトンを受け取ったのか。それを確かめていかなければなりません。そうしなければ、私たちが、次の世代に何を伝えなければならないかも明確にならないからです。それが今、五十年前の同行のみなさんから問いかけられていると思います。今年の両別院の御遠忌がまさにそういう問いを持った大切な法要であると思います。

光覺寺の御遠忌法要を終えて

第14組　光覺寺門徒　中村　庄衛

今から五十年前の一九六九（昭和四十四）年、私が二十一歳の時東京に行っている私は父母に「今度五十年に一回の御遠忌が寺で勤まるので一度見に帰ってきなさい」と言われて田舎に帰り、御遠忌の写真を撮っていました。当時は御遠忌の中身も知らず、父母に言われるままに、皆がされる事を見ていました。それからは、その時の記念の肩衣を今まで法事などに掛けてきました。会社を定年になり夫婦で実家に帰って長浜教区七五〇回忌お待ち受けで帰敬式を受け、寺の総代に指名され、三年間の門徒研修会にも参加し、推進員養成講座を受け本山での教習では皆で今後実行する宣誓文を宗祖親鸞聖人御真影の御前で発表しました。この頃から、少しずつ親鸞聖人のお教えに導かれていきました。

ちょうどその頃、先人達が計画してくれていた積立も終わった事もあり、寺では「七五〇回忌御遠忌法要を行おう」との話が盛り上がってきて、総会後一年間は『御遠忌準備委員会』で検討を重ねてまいりました。準備するに当たり五十年前の資料は一九九九（平成十一）年の本堂焼失に見舞われ全て無くなっており、有るのは私が撮った写真くらいでした。よって、周辺の法要を実施されたお寺さんを参考にさせて頂きました。その後、臨時総会も行い『御遠忌委員会』に移行し、委員会は13回に及ぶ会議で、法要スケジュール、庭儀（ていぎ）等の宿、記念品等の外注準備、食事等の各担当の詳細確認が行われ、式支配からの門徒説明会と準備を進めました。

二〇一七（平成二十九）年十一月御遠忌は前日の逮夜、法話、帰敬式から始まり、当日は晴天に恵まれ、住職、門徒一同晴々した気持ちで稚児衣裳替えから庭儀、おねり、御遠忌法要となり、本堂一杯の参列者で大きな声の唱和となりました。

今回の御遠忌法要を厳修するに当たり、時代に相応し、重荷にならないように派手にも質素にもならない内容で実施できたのではないかと喜んでおります。更に八百回忌御遠忌法要に向け住職の御孫さんも体験された事は良い事だったと思っています。五十年毎とは言いますが、なかなか門徒衆が一丸とならないと出来ない事業であります。私も今総代となり無事に厳修出来た事でホッとしています。

次は副住職が推進しています子どもたちや若い親御さんが気楽にお寺に来れる様にと『ぴかり』という名でイベントを実施していますので、それに毎回参加協力させて頂いています。そこでは皆でたこやきを作ったり、蜜柑を焼いたり、味噌つきをしたり、田楽を焼いたり、プロジェクターで色んな説明をしてもらったりと、他所の方々も含めて情報交換もして、お寺でワイワイ、ガヤガヤやっています。私もそうでしたが、お寺は年寄りが行く所と考えていましたが、子どもたちが集まる日曜学校などは良い事だと思います。昨今の情報過多と技術革新の速さ、複雑な社会のしわ寄せを受けている我々みんなが、親鸞聖人がお教えて頂いている「よりどころ」を求めて聴聞を重ね、小さい時から馴染みのお寺にしていきたいものです。

1257年（85歳）　親鸞、『上宮太子御記』を著わす。
親鸞、『浄土文類聚鈔』を転写。
親鸞、『一念多念文意』を転写。